



2021年7月のアラビカ価格はブラジルの深刻な霜害発生により2014年11月以降の最高水準に急騰した。気象の極端化現象に対する懸念は他のコーヒー生産国でも高まっている。

国際コーヒー価格は2021年7月も上昇を続け、アラビカは2014年11月以来の最高水準に達しました。これは、多くのコーヒー産地、特に7月20日に深刻な霜害に見舞われた世界最大の生産国ブラジルの現状と今後のアベイラビリティに対する懸念による。市場のボラティリティが高まっている。ICO複合指標価格の月次平均は2021年7月に152.24セント（USセント/ポンド、以下同様）に達し、2014年11月の162.17セント以来の最高水準に達した。今コーヒー年度当初の2020年10月と比較すると2021年7月の価格水準は43.8%上昇している。4つのコーヒーグループの全てが大幅な価格上昇を示した。2020/21コーヒー年度経過10か月間でのコーヒー価格の上昇傾向は、2017/18年度以降、世界市場を支配してきた価格の低迷状況から掛け値なしの回復を明確に示している。コロナパンデミック関連の制限措置が主要な消費市場で解除されワクチン接種プログラムが進展したことで、通常の経済活動への漸進的な復帰が可能になっており、価格動向は需要見通しの明るいことにも牽引されている。

市場ファンダメンタルズを見ると、2021年6月のコーヒー輸出国の総輸出量は2020年6月の1,080万袋に対して4.1%増の1,120万袋であり、これはパンデミック前の2019年6月の1,120万袋と同水準である。コロンビアを始め生産国のいくつかで発生したロジスティクスへの停滞は収められた。また、予防接種プログラムの段階的な導入により、多くの輸出国では人の移動を制限するパンデミック関連措置も緩和されてきた。2020/21コーヒー年度経過9か月間の全形態のコーヒー輸出量合計は9,860万袋で、2019/20年度同時期の9,610万袋に対して2.5%増加した。2020年7月から2021年6月までの輸出量累計は1億2,970万袋で2019年同時期の1億2,900万袋に対して0.6%増と見込まれる。2020/21年度の世界消費量推定は1億6,758万袋で2019/20年度の1億6,443万袋に対し1.9%の増加である。2020/21年度の総生産量推定は1億6,960万袋で変更なく、2019/20年度の1億6,894万袋に対しては0.3%の増加見込みである。

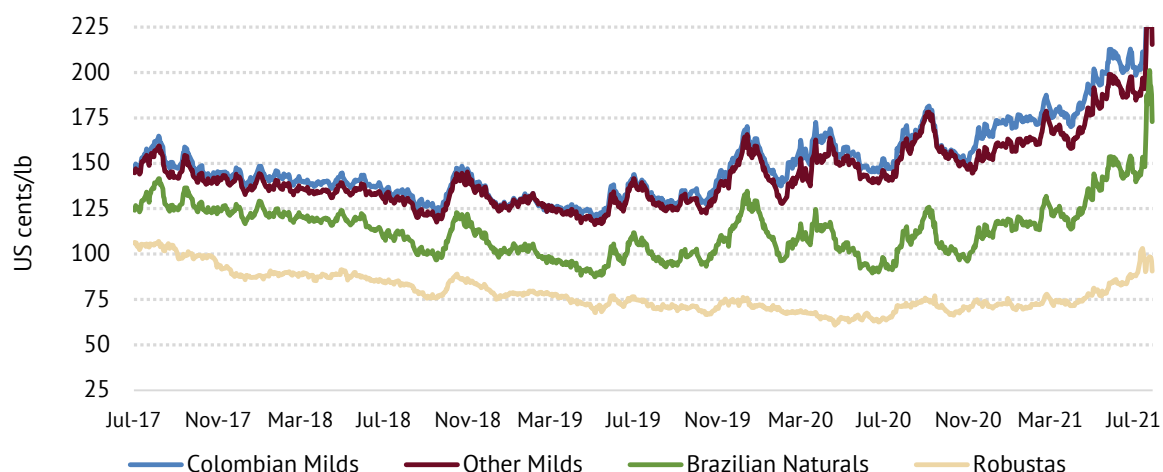
しかしながら、霜害や干ばつなど気象の極端化現象による影響を受けたブラジルおよび他生産国の大幅な生産量減少と需要の増加により、コーヒー需給比率は2021/22年度以降に逆転することが予想されている。

ICO複合指標価格の月次平均は2021年6月の141.03セントから2021年7月の152.24セントへ7.9%上昇した。2021年7月の価格レベルは2020年7月よりも42.9%高く9か月連続の上昇、2014年11月の162.17セント以降で最も高い。2020年10月の99.05セントと比較すると2021年7月は43.8%の上昇である。図1は過去3年間にわたる価格低迷とその後の顕著な上昇を示している。



2021年7月は全てのグループ指標価格が上昇し過去数年で最も高水準となった。コロンビアマイルドが2021年7月に付けた218.66セントは、2014年10月の222.59セント以降で最も高い。また2020年7月の103.66セントから42.6%上昇した。アザーマイルドは2021年6月の192.45セントに対して2021年7月は6.2%上昇し204.29セントを付けた。これは2014年11月の209.38セント以来のレベルである。ブラジルナチュラルは8.4%上昇の160.62セントで2015年1月の163.50セント以降で最も高く、2020年7月の97.96セントに対し64%上昇した。ロブスタは6月の84.85セントに対して7月は94.37セントで11.2%の上昇であり、2017年10月の98.39セント以降の最高値だった。2020年7月の67.69セントに対して39.4%上昇した。

図 2: ICO グループ指標価格



アラビカ価格指標であるニューヨーク先物取引所ではボラティリティが上昇した。2021年7月20日にブラジルのコーヒーベルトに降霜が発生した際には、市場価格は7月20日の165.65セントから7月26日の207.8セントに1週間で25.4%の急上昇をした。ニューヨーク先物市場の月次平均は2021年6月の156.43セントから2021年7月には168.55セントに上昇した。ロンドン先物市場の2021年7月の月次平均81.17セントは2017年11月の81.36セント以降で最も高い。

コロンビアマイルドとアザーマイルドの価格差は2%拡大して14.36セントとなった。ブラジルナチュラルは価格の上昇がアラビカグループの中で最も高かったため、コロンビアマイルドとブラジルナチュラルの価格差、アザーマイルドとブラジルナチュラルの価格差はそれぞれ0.6%、1.5%縮小した。アラビカグループ（コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラル）とロブスタグループの価格差はそれぞれ2.1%、2.2%、4.7%拡大した。ニューヨークとロンドンの先物市場で測定されたアラビカとロブスタの間のアービトラージは2021年6月の83.26セントに対して2021年7月は87.39セントで5%拡大した。

ICO複合指標価格のボラティリティは2021年7月に1.5ポイント上昇し10.6%だった。ブラジルの降霜発生を受けて大幅上昇し17%に達した。ブラジルナチュラルのボラティリティは13.8%で4つの指標グループの中で最も高く、コロンビアマイルドとアザーマイルドのボラティリティはそれぞれ10.2%と10.9%だった。ロブスタは2021年6月の7.7%から2021年7月は11%に上昇した。コーヒー市場は、ブラジルで発生した天候ショックによって動揺しており、高品質コーヒーについて現状と今後の入手可能性に対する懸念が高まっている。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場の
アービトラージ

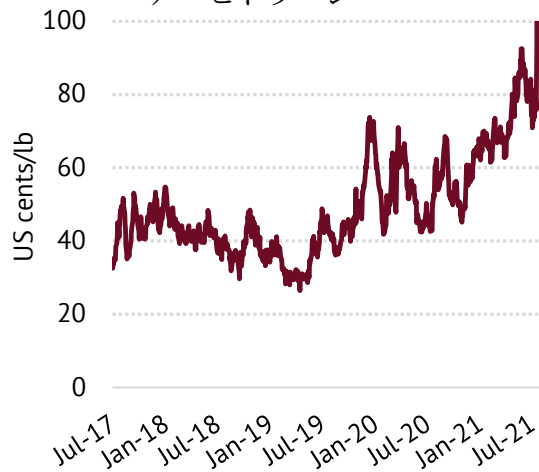
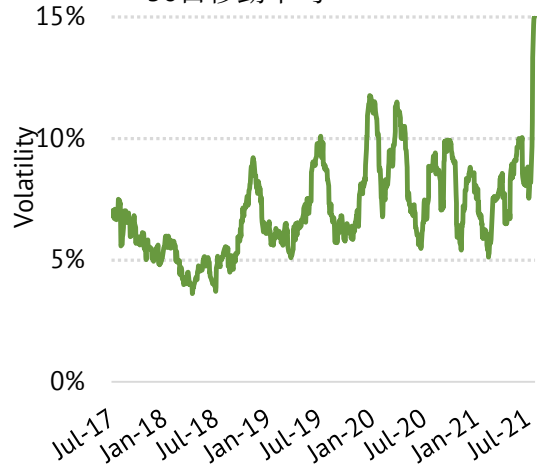
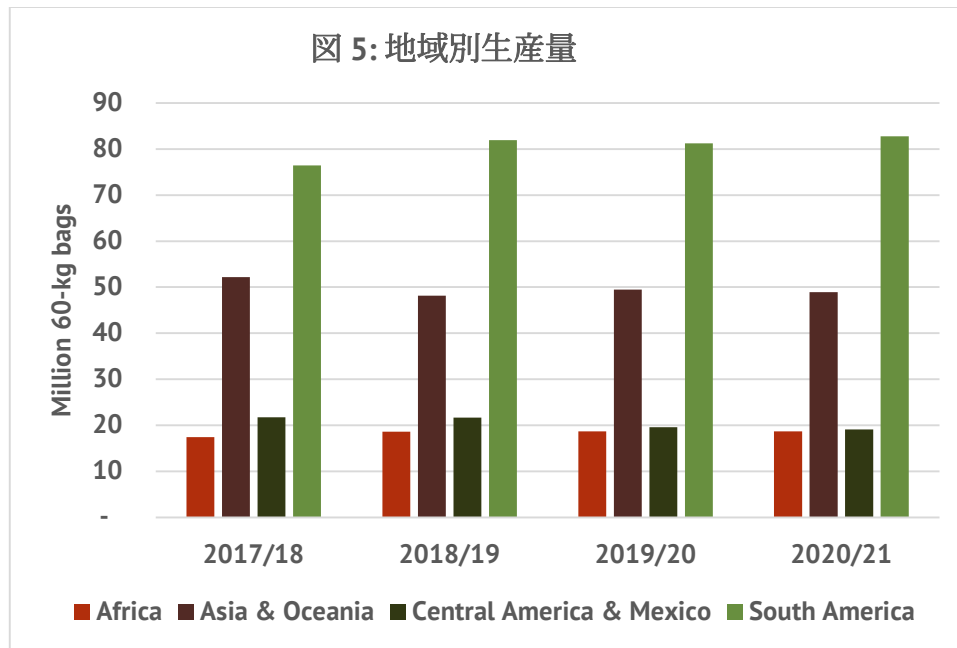


図 4: ICO複合指標価格のボラティリティ
30日移動平均

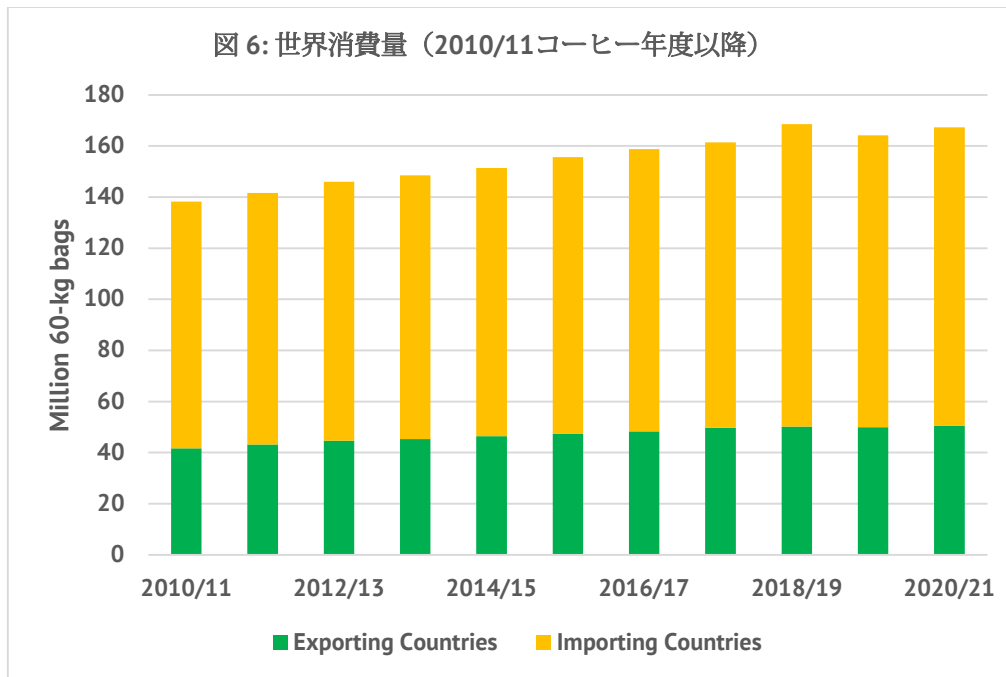


2020/21コーヒー年度の総生産量推定値は1億6,960万袋で前年度の1億6,890万袋に対して0.4%増である。アラビカ生産量は2.3%増の9,920万袋、ロブスタは2.1%減の7,040万袋と見込まれる。地域別では、アフリカの生産量が1,868万袋で前年度と同水準、アジア・オセアニアは前年度の4,945万袋に対して1.1%減の4,893万袋、中央アメリカ・メキシコは2019/20年度の1,960万袋に対して2.1%減の1,919万袋と予想されている。天候ショックに見舞われた多くの生産国で生産量の減少可能性がある。南米のコーヒー生産量は2019/20年度の8,120万袋に対して2020/21年度の2%増の8,280万袋と予想されている。

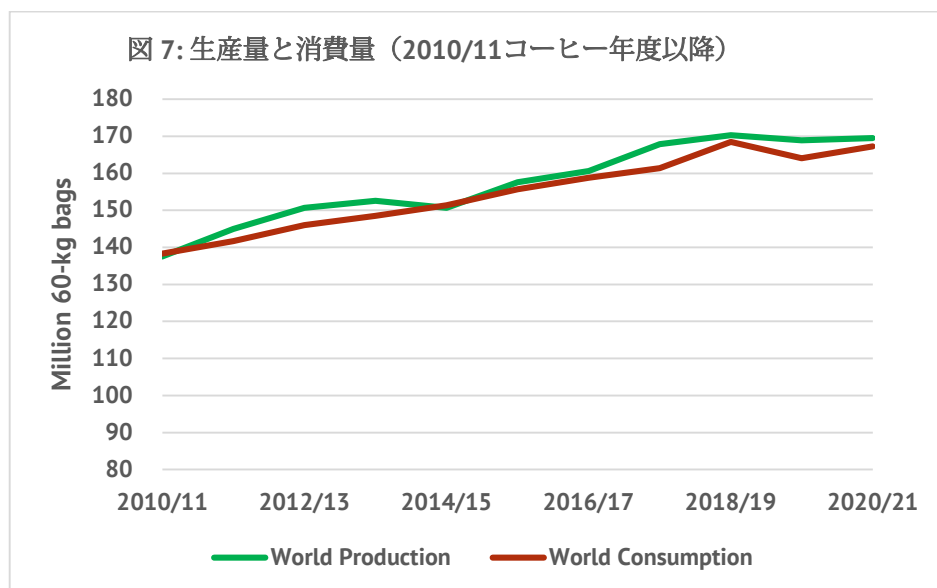


一方、ブラジルの状況は深刻な懸念材料となっている。4月に始まった2021/22クロップはアラビカ生産の裏年であるため大幅な減少は既に予想されていた。これに加えて、先月発生した霜害が相当数のコーヒーにダメージを与えたことが推定され、2022/23クロップ以降の生産量減少が懸念されている。ブラジルコーヒー当局による影響評価は継続中であるが、記憶に残る中で最も激しい霜害の1つである。コーヒーグループ別に生産量予測を見ると、コロンビアマイルドとブラジルナチュラルがそれぞれ2.4%と4.3%増加し、1,590万袋と5,440万袋、一方、アザーマイルドとロブスタはそれぞれ1.8%と2.1%減少し、2,880万袋と7,036万袋と見込まれる。

世界のコーヒー消費量は、2019/20コーヒー年度の1億6,443万袋に対して2020/21年度は1.9%増の1億6,758万袋と予測されているが、パンデミック発生前の1億6,850万袋に対しては0.8%下回っている。covid-19パンデミックに関する諸規制の緩和、および今後の景気回復見通しにより、世界のコーヒー消費は引き続き増加すると予想される。2010/11コーヒー年度以降、世界消費は年率平均1.7%で拡大しており生産国と新興市場での国内消費の伸びがこれに大きく貢献している。2020/21コーヒー年度の輸入国消費量は2.3%増の1億1,709万袋、輸出国国内消費量は1%増の5,050万袋と見込まれる。

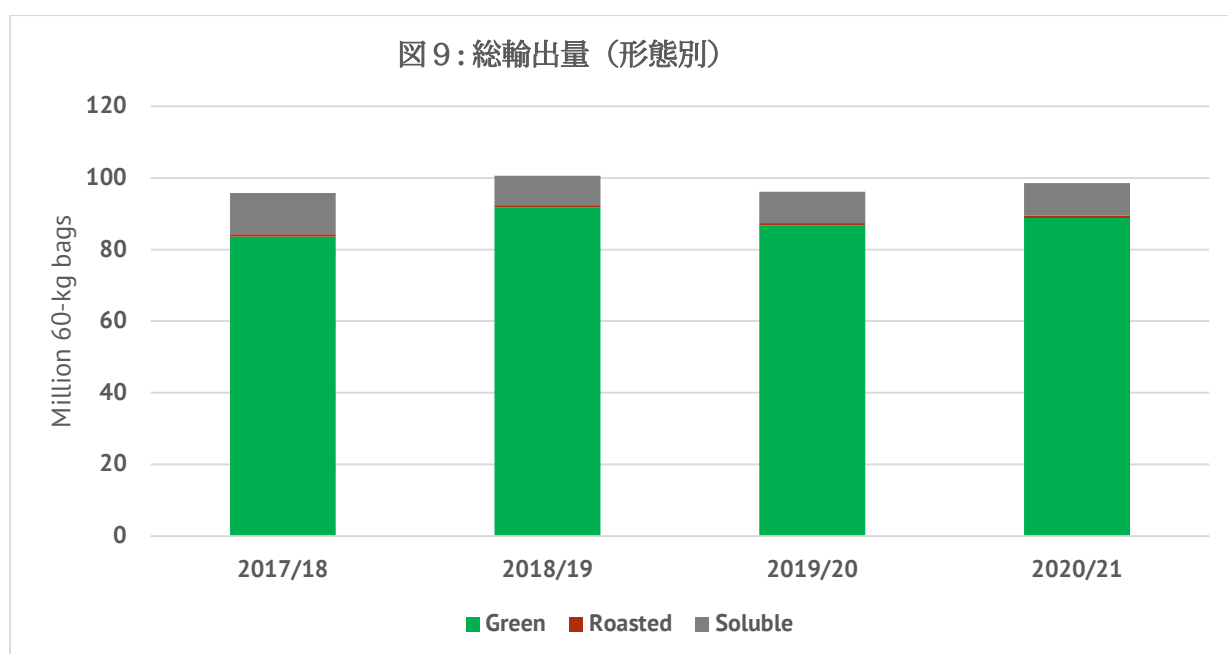
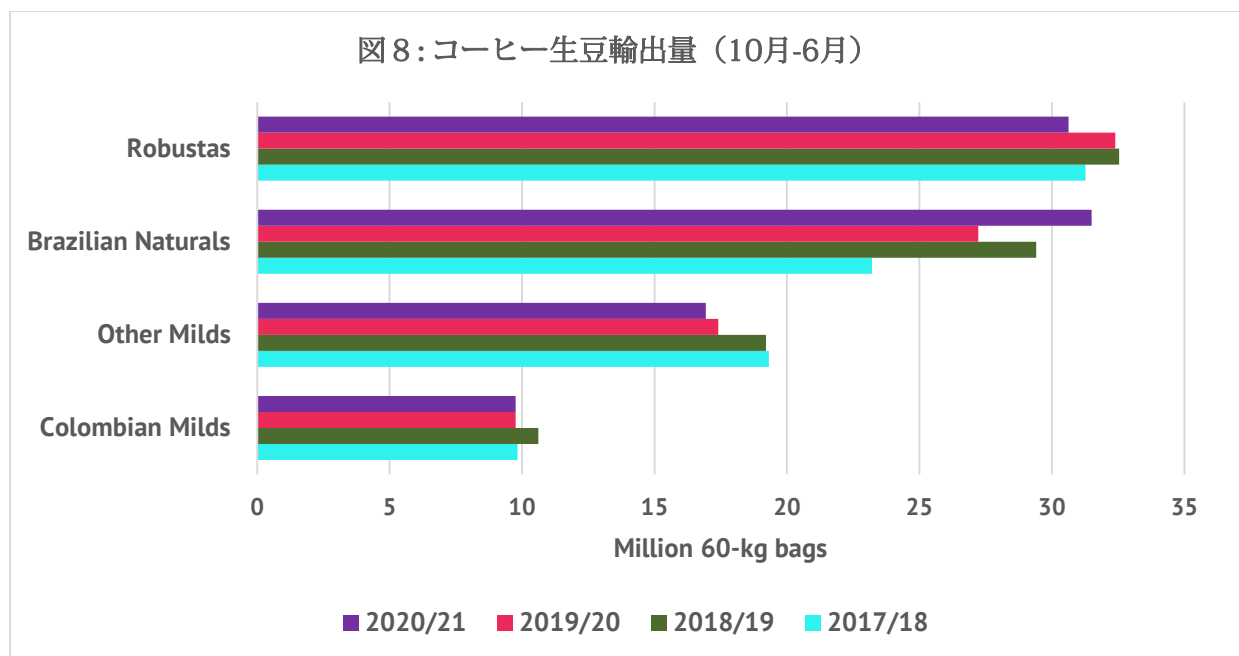


コーヒー需給比率は、2019/20年度の余剰3.2%から2020/21年度は余剰1.4%に縮小することから市場の引締まりが予想される。ブラジルを筆頭に多くの輸出国で最近発生した霜害や気候の極端事象の結果、ブラジルの生産量は大幅な減少が予想され世界の総供給量は総消費量を下回る可能性がある。市場ファンダメンタルズの動向として、2010/11コーヒー年度以降の生産量と消費量の推移は下図7の通りである。

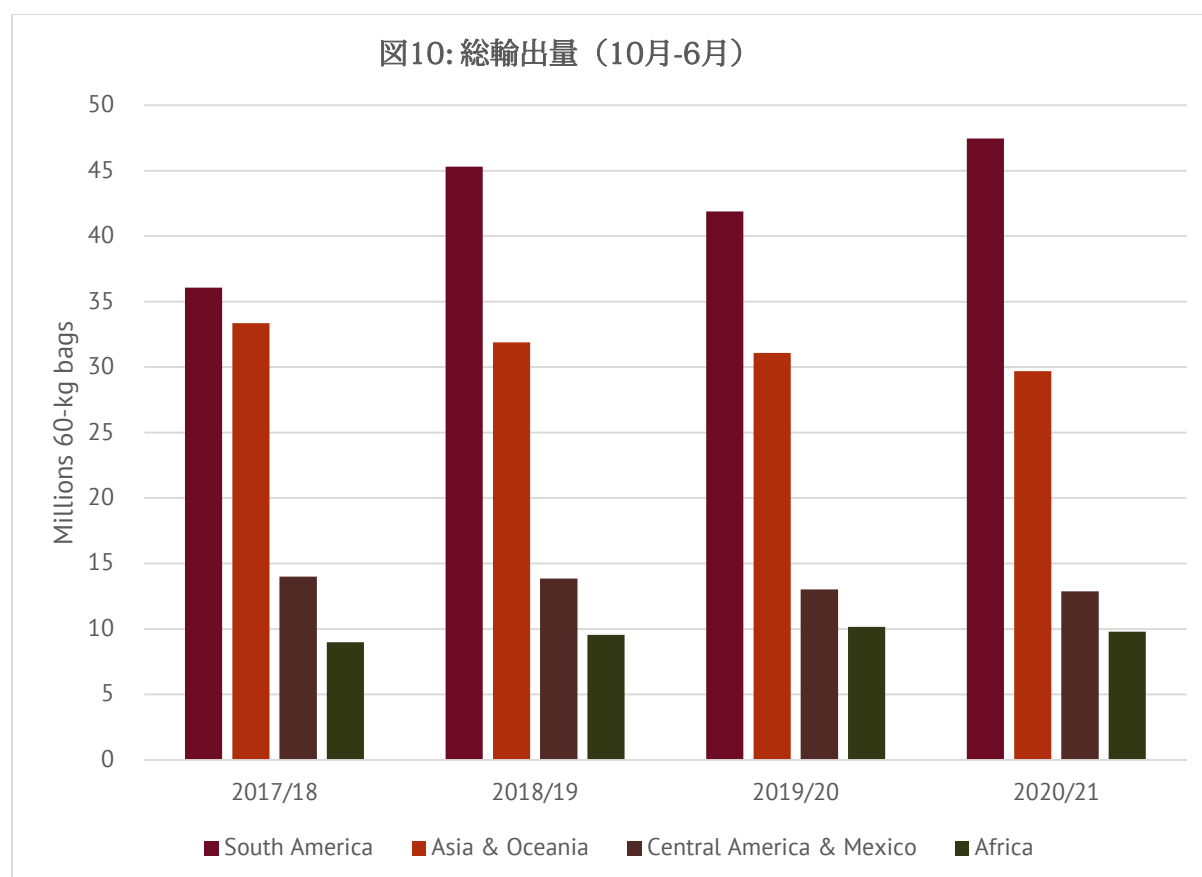


2021年6月の全形態のコーヒー輸出量合計は1,120万袋で2020年6月の1,080万袋に対し4.1%増加した。2021年6月のコーヒー生豆の輸出量は2020年6月から横這いの970万袋で、グループ別には、アザーマイルドとブラジルナチュラルの増加したものの

コロンビアマイルドとロブスタの減少に相殺された。2021年6月のアザーマイルドとブラジルナチュラルの生豆輸出は2020年6月に対してそれぞれ12.5%と17.2%増加している。焙煎コーヒーは2021年6月に大幅に増加したが15万袋に留まっておりその規模は生豆輸出の970万袋に対して依然僅少である。ソリュブルコーヒーは2020年6月の97万袋に対して2021年6月は35.4%増の130万袋だった。それにもかかわらず、2020/21コーヒー年度経過9か月間の4グループの生豆輸出量合計は8,880万袋で2019/20年度同時期の8,680万袋に対し2.3%増加している。



地域別に見ると、2020/21コーヒー年度経過9か月のアフリカのコーヒー全形態輸出量は3.5%減の980万袋だった。ウガンダ（+15.8%）、タンザニア（+15.7%）、ケニア（+17.5%）が増加し、エチオピア（-19.5%）、コートジボワール（-47.4%）で減少した。アジア・オセアニアは2,970万袋で2019/20年度同時期の3,170万袋に対して4.5%減少している。ベトナムは11.3%の減少だが、インドとインドネシアはそれぞれ5%と15.9%増加した。中央アメリカ・メキシコは1,280万袋で2019/20年度同時期の1,300万袋に対して1.3%減少した。ホンジュラスとニカラグアはそれぞれ6.1%と9.4%の減少である。



南米の2020年10月から2021年6月までの輸出量は10.3%増の4,620万袋だった。ブラジルが14.8%増加したがコロンビアは1.1%減少している。

表 1: ICO 指標価格と先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Jul-20	103.66	153.38	146.78	97.96	67.69	106.20	57.92
Aug-20	114.78	167.22	163.25	111.79	72.68	120.98	62.89
Sep-20	116.25	168.36	166.56	113.81	72.77	122.08	63.35
Oct-20	105.85	154.28	152.06	100.37	68.36	110.70	59.14
Nov-20	109.70	161.21	150.73	106.41	72.38	115.48	62.82
Dec-20	114.74	170.44	157.81	114.96	72.04	124.46	62.41
Jan-21	115.73	173.42	160.69	116.69	70.71	127.59	60.54
Feb-21	119.35	176.96	166.43	120.06	73.37	129.69	63.07
Mar-21	120.36	177.49	167.05	122.16	73.86	131.72	63.90
Apr-21	122.03	181.70	168.65	124.18	74.47	134.77	63.76
May-21	134.78	199.02	186.46	140.85	79.68	152.42	69.15
Jun-21	141.03	206.53	192.45	148.12	84.85	156.43	73.16
Jul-21	152.24	218.66	204.29	160.62	94.37	168.55	81.17
% change between Jun-21 and Jul-21							
	7.9%	5.9%	6.2%	8.4%	11.2%	7.8%	10.9%
Volatility (%)							
Jun-21	9.1%	8.2%	9.0%	11.6%	7.7%	11.5%	8.7%
Jul-21	10.6%	10.2%	10.9%	13.8%	11.0%	13.6%	8.6%
Variation between Jun-21 and Jul-21							
	1.5	2.0	1.9	2.2	3.3	2.1	-0.1

* Average prices for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Jul-20	6.60	55.42	85.69	48.82	79.09	30.27	48.28
Aug-20	3.97	55.43	94.54	51.46	90.57	39.11	58.09
Sep-20	1.80	54.55	95.59	52.75	93.79	41.04	58.73
Oct-20	2.22	53.91	85.92	51.69	83.70	32.01	51.56
Nov-20	10.48	54.80	88.83	44.32	78.35	34.03	52.66
Dec-20	12.63	55.48	98.40	42.85	85.77	42.92	62.05
Jan-21	12.73	56.73	102.71	44.00	89.98	45.98	67.05
Feb-21	10.53	56.90	103.59	46.37	93.06	46.69	66.62
Mar-21	10.44	55.33	103.63	44.89	93.19	48.30	67.82
Apr-21	13.05	57.52	107.23	44.47	94.18	49.71	71.01
May-21	12.56	58.17	119.34	45.61	106.78	61.17	83.27
Jun-21	14.09	58.41	121.68	44.32	107.59	63.27	83.26
Jul-21	14.36	58.03	124.29	43.67	109.93	66.26	87.39
% change between Jun-21 and Jul-21							
	2.0%	-0.6%	2.1%	-1.5%	2.2%	4.7%	5.0%

* Average prices for 2nd and 3rd positions

表 3: 世界のコーヒー需給バランス

Coffee year commencing	2016	2017	2018	2019	2020*	% change 2019/20
PRODUCTION	160,608	167,868	170,322	168,942	169,604	0.4%
Arabica	99,940	98,187	99,919	97,041	99,245	2.3%
Robusta	60,668	69,680	70,403	71,901	70,360	-2.1%
Africa	16,839	17,461	18,579	18,684	18,679	0.0%
Asia & Oceania	47,930	52,203	48,173	49,452	48,930	-1.1%
Mexico & Central America	20,322	21,752	21,636	19,598	19,194	-2.1%
South America	75,516	76,453	81,934	81,208	82,802	2.0%
CONSUMPTION	158,781	161,377	168,492	164,436	167,584	1.9%
Exporting countries	48,334	49,686	50,245	49,982	50,497	1.0%
Importing countries (Coffee Years)	110,447	111,691	118,247	114,455	117,087	2.3%
Africa	10,702	11,087	12,017	12,019	12,273	2.1%
Asia & Oceania	35,068	34,903	36,472	36,241	36,706	1.3%
Mexico & Central America	5,193	5,273	5,431	5,321	5,356	0.7%
Europe	52,148	53,251	55,637	53,316	54,250	1.8%
North America	29,559	29,941	31,779	30,628	31,768	3.7%
South America	26,111	26,922	27,156	26,912	27,232	1.2%
BALANCE	1,827	6,491	1,830	4,506	2,019	

In thousand 60-kg bags

*preliminary estimates

As the figures in this table are on a coffee year basis, these estimates will vary from the figures published in Table 1 of Coffee Production Report (<http://www.ico.org/prices/po-production.pdf>), which contains crop year data. For further details, see the explanatory note at the end of this report.

表 4: 輸出国の総輸出力

	Jun-21	May-21	% change	2019/20	Ocotber-June 2020/21	% change
TOTAL	11,200	9,865	13.5%	96,148	98,545	2.5%
Arabicas	7,351	6,030	21.9%	59,152	63,311	7.0%
Colombian Milds	994	487	103.9%	10,556	10,550	-0.1%
Other Milds	2,981	2,804	6.3%	19,225	18,943	-1.5%
Brazilian Naturals	3,377	2,738	23.3%	29,370	33,818	15.1%
Robustas	3,849	3,835	0.4%	36,996	35,234	-4.8%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫

	Aug-20	Sep-20	Oct-20	Nov-20	Dec-20	Jan-21	Feb-21	Mar-21	Apr-21	May-21	Jun-21	Jul-21
New York	1.45	1.26	1.30	1.40	1.52	1.75	1.92	1.97	2.07	2.21	2.33	2.32
London	1.85	1.85	2.04	2.24	2.31	2.40	2.44	2.50	2.53	2.67	2.53	2.43

In million 60-kg bags

=== 海外情報トピックス ===

2021 年 8 月海外情報トピックスは、7 月 20 日ブラジルで発生した霜害に関するウォールストリートジャーナルの記事をご案内します。

7 月 27 日付ウォールストリートジャーナル電子版

『Coffee Prices Jump to Six-Year High as Brazilian Frost Threatens Crop』

ブラジルで発生した霜害は収穫量（減少）への脅威となり国際コーヒー価格は 6 年ぶりの高値に急騰した

This copy is for your personal, non-commercial use only. To order presentation-ready copies for distribution to your colleagues, clients or customers visit <https://www.dgipr.com>

<https://www.wsj.com/articles/coffee-prices-jump-to-six-year-high-as-brazilian-frost-threatens-crop-11627380028>

COMMODITIES

Coffee Prices Jump to Six-Year High as Brazilian Frost Threatens Crop

Arabica-bean prices have leapt almost a third in July in latest instance of extreme weather sending jitters through commodity markets

By [Jeffrey T. Lewis](#) in São Paulo and [Joe Wallace](#) in London
Updated July 27, 2021 4:50 pm ET

The worst frost to strike Brazil's coffee-growing region in more than 25 years is set to cut a chunk out of next year's crop, sending prices of the bean to six-year highs on global markets.

The cold snap is the second weather shock in recent months to strike farmers in Brazil, the world's biggest coffee producer, threatening to drive up costs at cafes and breakfast tables around the world. Before the frost came a drought that parched the 2021 crop.

Traders are spooked by the prospect of another lackluster harvest in a year's time, and on Monday pushed futures for arabica beans up to \$2.08 a pound, their highest level in New York since late 2014. Though they fell on Tuesday, coffee futures have climbed almost 30% in July and nearly doubled over the past year, snapping a yearslong stretch of depressed prices that prompted many farmers to abandon their fields.

霜害発生直後のニューヨークコーヒー先物市場は 200 セント超を付けましたが、その後の相場展開は幾分落ち着きを取り戻している状況です。

その一方、ブラジルアラビカの主産地であり一部地域では氷点下 5 度を記録したミナスジェライス州の被害状況詳細の判明には数か月を要するとの観測もあり、今後の動向が注目されるようです。

会員各位のご参考となれば幸いです。

武藤（参与）

COMMODITIES

ブラジルの霜害は収穫量減少への脅威となり 国際コーヒー価格は6年ぶりの高値に急騰した

アラビカの国際取引価格は、最近の異常気象によるコモディティ市場の不安定化に伴い、7月には約30%超の急騰を見せた。

By [Jeffrey T. Lewis](#) in São Paulo and [Joe Wallace](#) in London

Updated July 27, 2021 4:50 pm ET

ブラジルのコーヒー生産地域は過去25年で最も酷い霜害に見舞われた。来シーズンクロップの一定部分がダメージを被っており、国際コーヒー価格を6年ぶりの高値に押し上げている。

霜害発生の前に干ばつが発生しており、寒波の襲来はここ数か月では二度目の気象災害である。世界最大のコーヒー生産国であるブラジルの生産者を襲い、世界中でコーヒーショップや朝食のコーヒー飲料のコストを押し上げる脅威となっている。

コーヒートレーダーは来シーズンの収穫量見込みが芳しくないことに動揺している。月曜日（7月26日）にはアラビカが1ポンドあたり2.08ドルまで上げた。これはニューヨーク先物としては2014年後半以降で最高のレベルにある。長期の価格低迷により多くの農家が畑を放棄するまでに至っていたコーヒー価格は急騰し、火曜日は下げたものの、先物価格は7月中に約30%の上昇、過去1年間では約2倍になっている。

Arabica-coffee futures prices, past five years

\$2.2 a pound



霜害による市場価格の上げ下げは、極端な気象の発生によって引き起こされる商品市況の動きの1つに過ぎない。先週、米国西部を襲った山火事が木材の供給地域を脅かしたとき、木材価格は急騰した。北西ヨーロッパの洪水は産業運送の幹線であるライン川での化学薬品などの物資流通を滞留させた。テキサスでは気温の急低下によって2月に暖房用エネルギーの天然ガスと電力の価格が急騰している。

一方、投資家は、銅、PVC、コーヒーなどコモディティの価格上昇分を企業が消費者に転嫁出来るかどうか注目している。

スターバックスは予想を上回る四半期の収益と売上高を火曜日に公表した。ネスレは木曜日の予定である。（ネスレは10年ぶりの大幅増収を公表した）

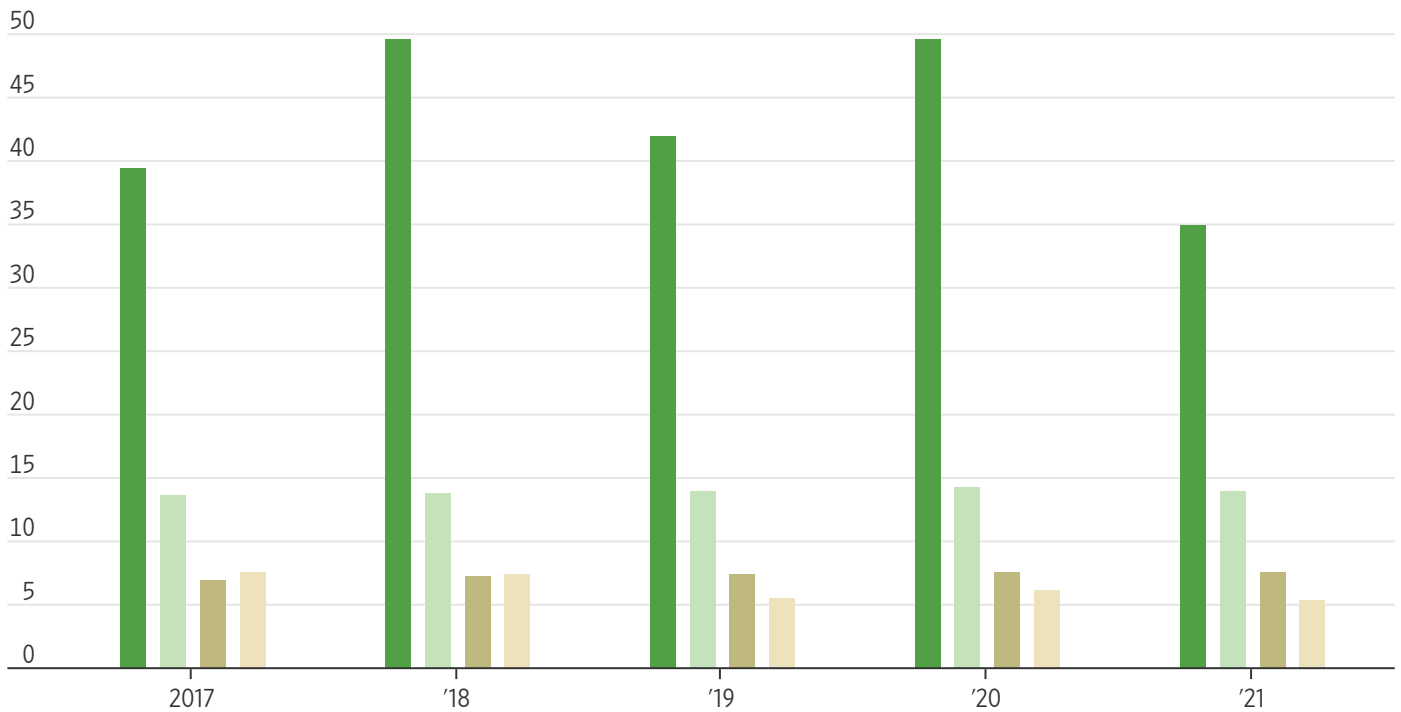
先週発生した広範囲にわたる霜害によって来シーズンのブラジルコーヒー生産は深刻な被害を受けた模様である。今年の干ばつにより生産量は大幅に減少しており、農家とトレーダーは取崩した在庫を補充するため2022年クロープに事業資金を充当していた。

ミナスルコーヒー協同組合の会長であり、自身も生産者でもあるホセマルコス・マガリャエス氏は、自営農場の2022年クロープはその3分の2を失う可能性があると言った。「私は通常12,000袋のコーヒーを生産しているが、約8,000袋を失うことになる。」と。

Annual output of arabica coffee by big producers

■ Brazil ■ Colombia ■ Ethiopia ■ Honduras

55 million bags



ミナスジェライス州はブラジルで最も重要なコーヒー生産州であり、スルデミナス地域は州内のどの地域よりも生産量が多い。ブラジル国立気象研究所の気象学者であるアネテ・フェルナンデス氏によると、スルデミナスの気温は一部で華氏23度（摂氏零下5度）まで下がり、地域全体が1994年以降で最も寒冷な気象となった。

コーヒー豆を内包するチェリーは樹葉で守られているため今回の霜害では進行中の2021年クロップが大きな影響を受けることは無い見込みである。しかし、農家は傷んだコーヒー木を剪定あるいは抜根しなければならず、ミナスジェライス州の来シーズンクロップは4分の1程度減少するだろうとマガリャエス氏は述べている。



A worker walks among drying coffee beans in Brazil's Minas Gerais state, where temperatures recently hit multi-decade lows.

PHOTO: PATRICIA MONTEIRO/BLOOMBERG NEWS

被害の詳細が判明するまでには数ヶ月を要する。大手穀物業者ED&FManの調査責任者であるコナ・ハック氏によると、2022年クロープでは400万から500万袋のコーヒーが失われる可能性がある。これは昨年のブラジル生産量の10分の1を若干下回る規模である。「1994年よりも悪いかもしれない。」とハック氏は言う。

月曜日に価格は10%上昇した。気象予報官によれば、別の寒冷前線が迫っており、今週後半に再び氷点下に近づくか氷点下になるとの予想がある。

「これほど劇的なものを見たのは初めてだ。」

英国の大手金融ブローカーマレックス・スペクトロンのコーヒー担当エグゼクティブディレクターであるマックス・コペステーク氏の価格急騰についてコメントした。

コペステーク氏によると、大霜のような極端な気象に起因するコーヒー価格の急騰は、供給源としてのブラジルに対して世界が依存度を高めているリスクを明らかにした。低コストのブラジル農場は、近年、世界市場を圧倒し、ホンジュラスなど生産効率の悪いコーヒー農家の転作や離農を助長している。そのため、米国含め各国のバイヤーは、ブラジルとベトナム（苦味のあるロブスタの最大供給源）の生産量に大きな影響を与える事象に対して神経質となっている。

最近のコーヒー価格の上昇には他の要因もある。コンテナの不足によりブラジルとベトナムからのコーヒー輸送の障害になっている。コロンビアでは反政府ストライキによりコーヒー輸出が滞った。広範囲にわたる熱波、火災、洪水は、農産物市場での不安定を引き起こしている。

「農産物関係者は誰もが気候変動について憂慮を始めている。」
食品農業分野ファイナンスで著名なラボバンクの上級アナリスト、カルロス・メラは述べた。



A drought in Minas Gerais shrank the 2021 coffee crop.

PHOTO: JONNE RORIZ/BLOOMBERG NEWS

Write to Jeffrey T. Lewis at jeffrey.lewis@wsj.com and Joe Wallace at Joe.Wallace@wsj.com

Appeared in the July 28, 2021, print edition as 'Frost in Brazil Hits Coffee Futures.'

Copyright © 2021 Dow Jones & Company, Inc. All Rights Reserved

This copy is for your personal, non-commercial use only. To order presentation-ready copies for distribution to your colleagues, clients or customers visit

<https://www.djreprints.com>.